

## 令和6年度 研究開発実施報告書（要約）

### 1 研究開発課題

特別支援教育における、変化する社会で生き抜くための資質・能力とエージェンシーを育成する教育課程及び指導方法の研究開発

—新領域「私の時間」（カリキュラム「私の成長計画」）の実践を通して—

### 2 研究の概要

本研究は、特別な教育的ニーズを有する生徒に対する「変化が激しい社会の中で生き抜くために必要な力・状態であるエージェンシーの育成を目指すための教育開発」であり、これまで本校で取り組んできたキャリア教育を発展させ、新領域「私の時間」を創設する。新領域「私の時間」を基軸に、教育課程の編成、授業における指導方法及び評価方法の研究に取り組み、以下の2点を研究開発する。

- (1) 新領域「私の時間」の教育内容を開発し、教育課程及び指導方法について研究する。また新領域「私の時間」の学びの充実に向けて、独自のICT支援ツールである「Ne!クスト」を開発する。
- (2) 新領域「私の時間」の学びの中で生徒が作成した「目標設定シート」等を活用し、生徒の教育的ニーズを踏まえた個別の教育支援計画の作成・活用の在り方を検証し、発達段階に応じ学校種を越えた切れ目ない支援システムの提言を行なう。

### 3 研究開発の目的と仮説等

#### (1) 研究仮説

生徒が、新領域「私の時間」の学習に取り組むことによって、エージェンシーを発揮するために必要な資質・能力の獲得ができるのではないかと考えた。

エージェンシーの発揮に必要な資質・能力を育むために新領域「私の時間」新設し、生徒が新領域「私の時間」の学習に取り組むことによって、エージェンシーを発揮するために必要な資質・能力である「よりよい未来に向かって変化を起こすために、目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動をとる資質・能力」の獲得ができると考えた。

#### (2) 教育課程の特例

研究仮説の検証のため、以下の3点を教育課程の特例として研究開発を進めた。

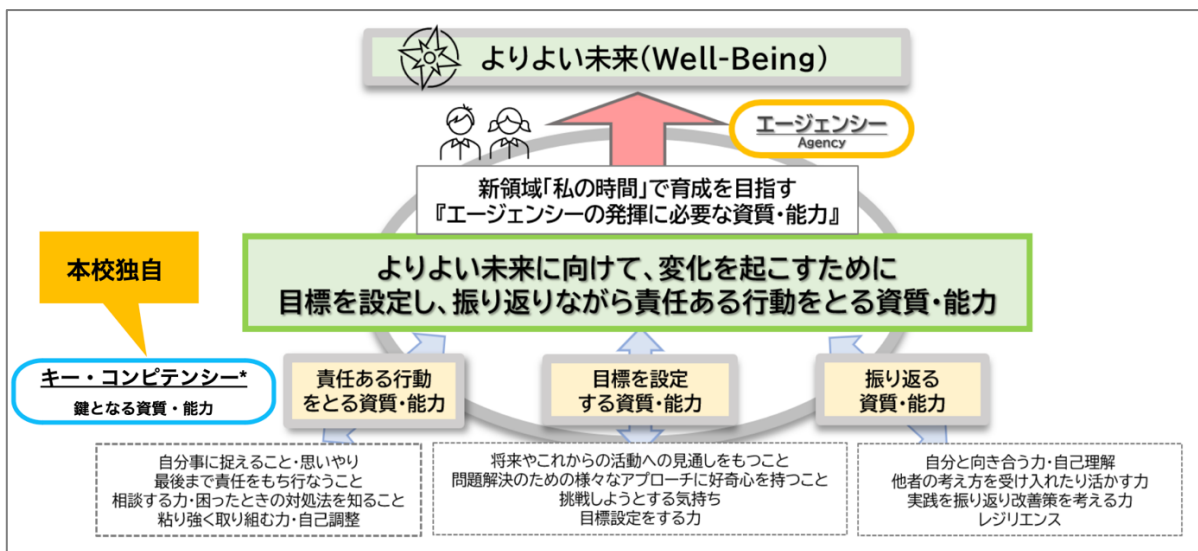
- ① 新領域「私の時間」を新設し、本校独自の育成を目指す資質・能力、新領域の目標や見方・考え方等を規定する。
- ② 新領域「私の時間」を各学年35単位時間程度設定する。その際、既存の教科・領域（総合的な探究の時間、自立活動、特別活動等含む）と新領域「私の時間」の関係性をもとに時数を調整する。
- ③ 新領域「私の時間」と既存の教科・領域との関係性を整理し、新領域「私の時間」を効果的に運用するため、教育課程における「キャリア教育」に関係する学習内容と横断的・弾力的・効果的に往還できるようにし、相互の関連を図りやすく、効果的な学習活動が行なえるようにする。

## 4 研究内容

### (1) 教育課程の内容

#### ① エージェンシーの発揮に必要な資質・能力について

本校ではエージェンシーを「周囲との関係性を重視した主体性」、エージェンシーの発揮に必要な資質・能力を「よりよい未来に向かって変化を起こすために、目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動をとる資質・能力」と定義した。そしてエージェンシーの発揮に必要な資質・能力を「目標を設定する資質・能力」「振り返る資質・能力」「責任ある行動をとる資質・能力」の3つの柱で整理し、構成要素も明らかにした。(図1)尚、エージェンシーの発揮に必要な資質・能力の3つの柱は、学習指導要領で示される資質・能力及びその3つの柱との混同を避けるため、「キー・コンピテンシー」と名称を設定している。生徒が新領域「私の時間」の学習に取り組み、キー・コンピテンシーを一体的に獲得することで、エージェンシーの発揮に繋げていくことができると考えている。



(図1 エージェンシーの発揮に必要な資質・能力とその構成要素)

#### ② 新領域「私の時間」の目標・内容等について

新領域「私の時間」の目標・内容・指導計画・内容の取り扱い等について、これまでの研究を総括して学習指導要領の示し方に倣い、「新領域『私の時間』目標・内容・内容の取り扱い等」を作成した。

新領域「私の時間」の目標は、以下のように設定した。

##### 第1の1 目標

私の時間の見方・考え方を働かせ、自分を取り巻く状況を受け入れ、他者や社会との関わりの中で自分らしい生き方を自ら考えて実現しようとするエージェンシー（周囲との関係性を重視した主体性）の発揮に向けた「見通し・実践・振り返り」の学習サイクルを通して、「よりよい未来に向けて、変化を起こすために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる資質・能力」を育成することを目指す。

新領域「私の時間」の見方・考え方は、「現在・過去・未来と自分、周囲と自分との関係性をもとに、自分の生き方・在り方を考え、自分の人生を自分事にしていくこと」とした。また、学習者がこの見方・考え方を働かせるために、「自己理解の深まり」と「関係性の広がり」を重視した学習活動を設定している。

さらに、学びの充実を図るため、自分で先を見通して計画を立てて実践し、実践を振り返ることで経験から新しい知識を抽出したり、次の予測や目標に繋げたりするよ

うな AAR (Anticipaition: 見通し・予測-Action: 実践-Reflection: 振り返りで構成されるサイクル) による学習サイクルを構成した。

新領域「私の時間」の内容は、キー・コンピテンシー及びその構成要素と対応させて整理し、以下のように設定した。

## 第2 内容

内容は、エージェンシーの発揮に必要な資質・能力を構成する3つのキー・コンピテンシー「目標設定をすること」「責任ある行動に関すること」「振り返りをすること」の構成要素を項目として扱うものとする。

内容を、以下に示す。

### (1) 目標設定

- ア 将来やこれからの活動への見通しを持つこと
- イ 問題解決のための様々なアプローチに好奇心を持つこと
- ウ 挑戦しようとする気持ち
- エ 目標設定をする力

### (2) 責任ある行動

- ア 自分事に捉えること
- イ 思いやり
- ウ 最後まで責任をもち行なうこと
- エ 相談する力
- オ 困ったときの対処法を知ること
- カ 粘り強く取り組む力
- キ 自己調整

### (3) 振り返り

- ア 自分と向き合う力
- イ 自己理解
- ウ 他者の考え方を受け入れたり活かしたりする力
- エ 実践を振り返り改善策を考える力
- オ レジリエンス

新領域「私の時間」の指導計画、内容の取り扱いは、これまでの教育実践や研究を総括し、以下のように設定した。

## 第3の1 指導計画

指導においては、児童・生徒の実態に合わせ、第2内容を年間の単元計画に反映させ、キー・コンピテンシーを一体的に育成できるようにする。その際、現在・過去・未来と自分との関係性をもとに、自分についての理解を深め、自身の生き方やあり方を考え、人生を自分事にしていくことができるよう「自分自身に関する課題」「今に関する課題」「よりよい未来に関する課題」の学習課題を設定し内容を配列する。私の時間における学びは、他教科等で身につけられた資質・能力に関連付け、学習や生活において相互に働きかけるようにする。

学びの充実を図るために、自分で先を見通して計画を描き、実践に移し、実践を振り返って、経験から新しい知識を抽出したり次の予測や目標につなげたりするような Anticipation(見通し・予測)-Action(実践)-Reflection(振り返り)のサイクル(以下、AAR サイクル)で構成する。

### 第3の2 内容の取扱い

内容の取扱いにあたっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 学習者は、領域「私の時間」において、「よりよい未来」について考え、そのために自身がなりたい姿・状態を「自己理解・自己分析」し、「自分自身の目標や目標達成のために学校生活でどのように学んでいくかを考えた計画」を立てられるようにすること。
- (2) 学習者は、多様な視点を踏まえて、自己分析をすること。支援者は、特別なニーズを必要とする学習者が自分自身をより具体的に考察できるよう特性や実態にあわせた支援をすること。
- (3) 学習者は、目標達成に向けて実践をし、振り返りをする。
- (4) 学習者は、協働的な学習を通して、よりよい未来に向かうための多様な視点や方策を得ること。
- (5) 学習者は、よりよい未来に向かって自分自身で学びを舵取り・調整することを繰り返すことによって、責任ある行動をとろうとする態度を養うこと。

#### ③各学年年間 35 単位時間の設定

新領域「私の時間」を、教育課程に各学年年間 35 単位時間設定し、年間指導計画を作成した。第一年次～第二年次研究については、生徒の実態に合わせた不定期まとめ取りの形で、新領域「私の時間」を実施した。第三年次～第四年次については、他校種・他障害種への般化も見据えて、キー・コンピテンシーを系統的に配列させた週 1 回 1 コマで設定し、実践の場と想定する他教科・領域等や学校行事の時期との関係性を踏まえ、最適な実施時期や各単元の時数配分に調整した。また、「新領域『私の時間』の目標・内容等」に基づいて、専門教科、家庭科、総合的な探究の時間、特別活動（HR）の時数を削減し、教育課程を編成している。（別紙 1）

また、年間指導計画については、他者や社会との関わりの中で自分らしい生き方を自ら考えて、実践しようとする学習サイクルで内容を計画している。このサイクルは 1 年間で完結するものでなく、3 年間を通して学びに広がりを持てるように、目標や単元配置等を設定している。

尚、本校のような専門学科を設置する高等部単独の特別支援学校においては、生徒の実態に合わせた指導形態での実施や、「産業現場等における実習」等の学校行事との兼ね合いから、週 1 回 1 コマでの実施より、不定期まとめ取りでの実施の方がより充実した学習活動になると考えている。

#### ④ICT 支援ツール「Ne!クスト」の開発・運用

本校の教育課題でもあった、生徒の「自己評価と他者評価の乖離」「自分を俯瞰して見るのが難しい実態」「他者の意見を受け止める力の課題」といった諸課題に対する取り組みとして、独自の ICT 支援ツール「Ne!クスト」を Web システムとして開発し、運用した。生徒が「Ne!クスト」を活用した自己分析で、自分の強み・課題の自己理解を深め、「なりたい自分」を目指し、目標設定シートを活用して今後の学習目標を立てる学習に取り組み、自分の学習を自己調整していく力を育む。また、Ne!クストを活用して自分自身を「メタ視点」から見つめることで、「メタ認知」を高めるための足場掛けとなることをねらっている。研究開発前の Excel マクロのシステムから Web システムに移行したことで、処理時間の大幅な短縮と使用感の向上、機能拡張と改善を行なうことができた。

また、現システムは本校の設定した資質・能力の「項目（ステカ）」で設計されているが、他校種・他障害種の学校においても運用できるよう、各学校の資質・能力の項目（大項目や小項目の階層・数・種類・ルーブリック）を設定できるようにした。

#### ⑤新領域「私の時間」における、よりよい指導・支援の在り方

生徒が着実にキー・コンピテンシーを獲得し、エージェンシーの発揮を促すことができるカリキュラムとするために、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実の視点から、学びの充実のために必要な授業づくりの視点を整理した。その際「学習者主体」を重視するため、個別最適な学びを「学習者主体」と「学びの個別最適化」の2つの視点とし、「協働的な学び」を含む3つの視点で整理し、以下のとおり示した。

#### 1 「学習者主体」の視点

- (1) 教材（ステカ）の改善 → 生徒の理解を深めるため
- (2) シンプル化 → 教材の意義の説明、必要性の実感
- (3) 目標設定の支援 → 具体的な目標を設定できるような支援
- (4) 実践的な活動の充実 → 生徒がイメージしやすい授業の展開
- (5) 振り返りの強化 → 生徒が自分の学びを振り返る機会を増やす
- (6) 全体像の把握 → 目指す方向を共有する

#### 2 「学習の個別最適化」の視点

- (1) 複数共有での支援強化 → 生徒一人一人の理解度を確認しながらの進行
- (2) ICTの活用促進 → 個別の理解度把握と振り返りの強化
- (3) 視覚的な補助の工夫 → 生徒の実態に対応して
- (4) 時間管理の徹底 → 活動に見通しを
- (5) 生徒の集中力維持 → 短時間での活動や休憩の活用
- (6) 自己表現の促進 → 自己表現しやすい雰囲気作り

#### 3 「協働的な学び」の視点

- (1) 時間管理の改善 → 時間配分を見直し、意見交換の時間を作る
- (2) 役割分担の明確化 → 個とグループで取り組む課題を明確にする
- (3) グループ活動の強化 → 多様な意見や視点を共有できる場の提供
- (4) ルールの確認と徹底 → 相手の意見を否定しない等のルールの再確認
- (5) 振り返りの強化 → 互いの意見やアドバイスを受け入れられる環境
- (6) 新たな発見の共有 → 発見をもとに、授業内容を充実
- (7) 楽しさの維持 → 生徒の興味を惹く活動

またこれからの教育においては、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実だけでなく、生徒の意見を受け入れ、自己発見や自己実現に向けた学びを支援するファシリテーターとしての役割を教師が担う必要があると考えた。そうした学びの実現に向けて、教師に必要とされる資質・能力と専門性を以下のとおり示した。

#### 4 教師に必要な資質・能力と専門性

- (1) 信頼関係とリラックスした環境  
→ 生徒が安心して自己表現できる雰囲気づくり
- (2) 生徒の声を重視する姿勢  
→ 生徒の意見を受け入れ、尊重し、やる気を引き出す
- (3) 生徒が自己肯定感を実感できる支援  
→ 生徒が自分自身を肯定し、自己実現できるような支援
- (4) 対等な関係の構築と対話の促進  
→ 対等な立場で考え話し合い、自己実現・表現を支援
- (5) 目標設定と振り返りの重視  
→ 目標を共有し、道筋を考え、振り返りを通じて学びを促進

- (6) 外部資源や地域との協働  
→ 地域や企業との協働で興味関心にあった学びを提供
- (7) 自分自身（教師）の成長  
→ 教師エージェンシー・教師のウェルビーイング

⑥新領域「私の時間」における学習評価を効果的に生かした指導・支援

エージェンシーの発揮に必要な資質・能力の育成のためには「生徒が自身の学びの過程を振り返り、言語化・対話できること」「教師を含めた他者からの価値づけ、環境要因の後押しを加えること」の3つの視点を重視することが必要だと考えた。生徒が自らの振り返りにつなげられるように的確に生徒の学びの姿を捉え、適当なタイミングでそれらを生徒へ価値づけできる対話的かつ協働的な学習機会を設定した。

(2) 研究の経過

	実施内容等
第一年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新領域「私の時間」の全体理論の構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>・エージェンシーに関する一定定理</li> </ul> </li> <li>②新領域「私の時間」の教育内容及び効果的な指導・支援方法の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育内容の具体的取り組みの設定</li> <li>・効果的な指導・支援方法の具体的取組</li> <li>・教育課程編成の具体的取組</li> </ul> </li> <li>③ICT支援ツール「Ne!カスタ」の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・G-suite移行</li> <li>・9月よりG-suite上の「Ne!カスタ」を全クラスで実施</li> </ul> </li> <li>④新領域「私の時間」に係る効果検証 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善に係る調査</li> <li>・エージェンシーの発揮に必要な資質・能力に係る調査</li> </ul> </li> </ul>
第二年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新領域「私の時間」の全体理論の構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究仮設の設定</li> <li>・新領域「私の時間」で育成する資質・能力の枠組みの明確化</li> </ul> </li> <li>②新領域「私の時間」の教育内容及び効果的な指導・支援方法の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育内容の具体的取組</li> <li>・週1回約15分の振り返り活動の取組</li> </ul> </li> <li>③ICT支援ツール「Ne!カスタ」の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「Ne!カスタ」の運用</li> <li>・開発（ブラッシュアップ、eポートフォリオ化）</li> </ul> </li> <li>④ブラッシュアップ <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成の具体的取組</li> </ul> </li> <li>⑤新領域「私の時間」に係る効果検証 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善に係る調査</li> <li>・エージェンシーの発揮に必要な資質・能力に係る調査</li> </ul> </li> </ul>
第三年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新領域「私の時間」の全体理論の構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新領域「私の時間」の学習指導要領の示し方に倣った整理</li> <li>・新領域「私の時間」で育成する資質・能力の構成要素を明確化</li> </ul> </li> <li>②新領域「私の時間」の教育内容及び効果的な指導・支援方法の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育内容の具体的取組</li> <li>・効果的な指導・支援方法の具体的取組</li> <li>・教育課程編成の具体的取組（週1コマ35単位時間での実践）</li> </ul> </li> <li>③ICT支援ツール「Ne!カスタ」の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・Webシステム移行</li> </ul> </li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Web システム「Ne!クスト」の運用</li> <li>・ 開発（第二年次研究での課題の改善・開発）</li> <li>④新領域「私の時間」に係る効果検証</li> <li>・ 授業改善に係る調査</li> <li>・ エージェンシーの発揮に必要な資質・能力に係る調査</li> <li>・ 運営指導委員の所属校での実践まとめ</li> </ul>
第四年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新領域「私の時間」の全体理論の構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エージェンシーに関するまとめ</li> <li>・ 新領域「私の時間」のカリキュラムに関するまとめ</li> </ul> </li> <li>②新領域「私の時間」の教育内容及び効果的な指導・支援方法の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育内容の具体的取組のまとめ</li> <li>・ 効果的な指導・支援方法の具体的取組のまとめ</li> <li>・ 教育課程編成の具体的取組のまとめ</li> </ul> </li> <li>③ICT 支援ツール「Ne!クスト」の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Web システム「Ne!クスト」の運用</li> <li>・ 開発（第三年次研究での課題の改善・開発）</li> </ul> </li> <li>④新領域「私の時間」に係る効果検証のまとめ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業改善に係る調査</li> <li>・ エージェンシーの発揮に必要な資質・能力に係る調査</li> <li>・ 運営指導委員の所属校での実践まとめ</li> </ul> </li> </ul>

（３）評価に関する取組

	評価方法等
第一年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>①校内委員会（研究推進委員会、教育課程検討委員会）において効果検証の結果をもとに、新領域「私の時間」の目標や内容及び教育課程の在り方を検証した。</li> <li>②運営指導委員会にて、効果検証の結果をもとにカリキュラムや教育課程の編成についての意見を整理し、改善に生かした。</li> <li>③校内研修会にて、生徒の姿や効果検証をもとに、よりよい指導・支援について協議した。</li> <li>④公開研究会（２月）を行ない、１年目の取組の成果（実施の効果）と課題を整理した。</li> </ul>
第二年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>①校内委員会（研究推進委員会、教育課程検討委員会）において効果検証の結果をもとに、新領域「私の時間」の目標や内容及び教育課程の在り方を検証した。</li> <li>②運営指導委員会にて、効果検証の結果をもとにカリキュラムや教育課程の編成についての意見を整理し、改善に生かした。</li> <li>③校内研修会にて、生徒の姿や効果検証をもとに、よりよい指導・支援について協議した。</li> <li>④公開研究会（２月）を行ない、２年目の取組の成果（実施の効果）と課題を整理した。</li> </ul>
第三年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>①校内委員会（研究推進委員会、教育課程検討委員会）において効果検証の結果をもとに、新領域「私の時間」の目標や内容及び教育課程の在り方を検証した。</li> <li>②運営指導委員会にて、効果検証の結果をもとにカリキュラムや教育課程の編成についての意見を整理し、改善に生かした。</li> <li>③校内研修会にて、生徒の姿や効果検証をもとに、よりよい指導・支援について協議した。</li> <li>④公開研究会（２月）を行ない、３年目の取組の成果（実施の効果）と課題を整理した。</li> </ul>

第四年次	<p>①校内委員会（研究推進委員会、教育課程検討委員会）において効果検証の結果をもとに、新領域「私の時間」の目標や内容及び教育課程の在り方を検証した。</p> <p>②運営指導委員会にて、効果検証の結果をもとにカリキュラムや教育課程の編成についての意見を整理し、改善に生かした。</p> <p>③校内研修会にて、生徒の姿や効果検証をもとに、よりよい指導・支援について協議した。</p> <p>④公開研究会（11月）を行ない、4年目の取組の成果（実施の効果）と課題を整理した。</p>
------	---

## 5 研究開発の成果

### （1）実施による効果

新領域「私の時間」によってキー・コンピテンシーを育成できるように構成した年間指導計画に基づき、全学年で実践を行なった。それぞれの授業実践後に「授業の有用性」と「生徒の変容」を評価できるように、以下に示すアンケート調査及びインタビュー調査等について評価・分析等を行なった。

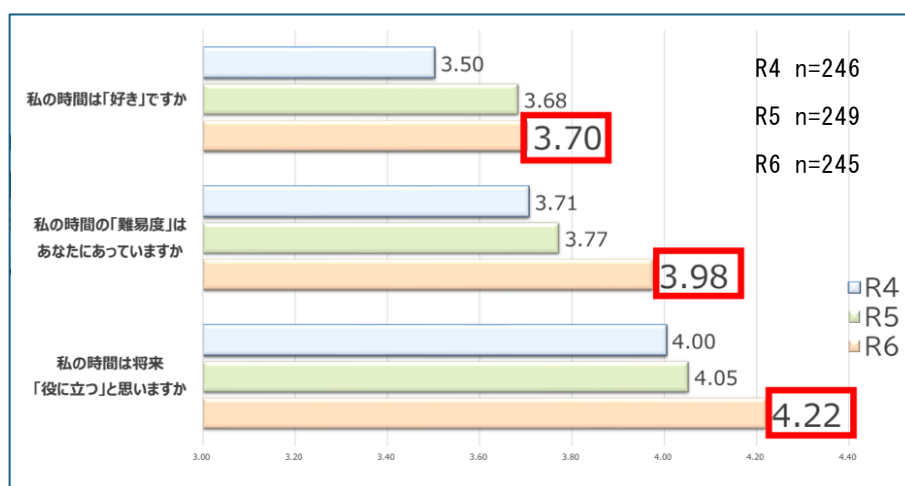
生徒向け調査	教師・保護者向け調査
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション（アンケート調査）</li> <li>・前期目標設定（アンケート調査）</li> <li>・ようこそ！卒業生（アンケート調査）</li> <li>・先生相談会（アンケート・インタビュー調査）</li> <li>・私ノート（アンケート調査）</li> <li>・移行支援会議に向けて（アンケート調査）</li> <li>・学校の授業に関する意識調査アンケート（前期・後期：アンケート調査）</li> </ul>	<p>校内研修会（4・5・7・8・11月：教師アンケート調査）</p> <p>「私の時間」の有用性調査（教師：インタビュー調査）</p> <p>公開研究会時後アンケート（教師：アンケート調査）</p> <p>学校評価アンケート（教師・保護者：アンケート調査）</p>

#### ① 生徒の効果

ア 新領域「私の時間」の「好き嫌い度」「難易度」「有用性」が高まったこと

新領域「私の時間」について、生徒が「好き嫌い」「難易度」「有用性」をどのように捉えているかを明らかにするため、第二年次研究より「学校の授業に関する意識調査アンケート」において、「私の時間は『好き』ですか」「私の時間の『難易度』はあなたにありますか

ですか」「私の時間は将来『役に立つ』と思いますか」について、それぞれ5件法で生徒から回答を得た（図2）。結果、どの質問項目においても研究開発が進むにつれて、肯定的な回答をする



（図2 学校の授業に関する意識調査アンケート

生徒の割合が増える結果となった。特に令和5年度から令和6年度にかけての数値の伸び率が高くなった。このことは、令和5年度の後期から校内研究において授業改善に重点をおいて取り組んできた結果によるものと考えている。

イ 流山高等学園版「18歳意識調査アンケート」



本校の3年生を対象に、「流山高等学園版18歳意識調査アンケート」を実施した。これは日本財団が実施した18歳意識調査第62回「国や社会に対する意識（6カ国調査）」の調査項目を、本校の生徒向けに内容を調整して実施したものである。本校のアンケートの結果と、日本財団が実施した結果を比較して示した（図3）。

結果、「将来の夢を持っている」「自分の人生には目標や方向性がありますか」「自分の

のしていることは、目的や意味があると思いますか」「勉強、仕事、趣味など、何か夢中になれることがありますか」「日々の生活は楽しいと思いますか」というそれぞれの質問項目において、日本の同年代の回答

よりも10

	①将来の夢を持っている	②自分の人生には目標や方向性がありますか	③自分のしていることは、目的や意味があると思いますか	④自分には誇れる個性があると思いますか
流山	79.3 ✓	76.7 ✓	80.6 ✓	61.1
日本	60.1	63.2	62.8	53.5
アメリカ	84.7	78	78	81.1
イギリス	82	72.9	72.9	75.4
中国	88.2	90.2	90.2	84.8
韓国	73.5	74.2	74.2	65.6
インド	88.4	83.9	83.9	83.9

	⑤自分は他人から必要とされていると思いますか	⑥目標を立てて、何かを達成した経験がありますか	⑦勉強、仕事、趣味など、何か夢中になれることがありますか	⑧日々の生活は楽しいと思いますか
流山	62.4	79.3 ✓	87 ✓	80.6 ✓
日本	56.8	68.9	71.3	66.9
アメリカ	73	82.9	85.2	75
イギリス	71.5	80.9	82.7	68.6
中国	85.8	89	90.2	84.6
韓国	70.1	78.3	77.6	65.8
インド	70.2	83.9	87.2	77.8

	①自分は大人だと思えますか	②自分は社会の役に立てると思えますか	③自分の行動で国や社会を変えられると思えますか	④自分は責任がある社会の一員だと思えますか
流山	58.5	68.9	35.1 ✓	70.2
日本	49.6	64.3	45.8	61.1
アメリカ	76.6	78.4	65.5	79.4
イギリス	75.8	77.7	56.1	80.7
中国	90	93.6	83.7	92.1
韓国	54.8	71.1	60.8	74.5
インド	81.7	85.9	80.6	86.8

（図3 流山高等学園版18歳意識調査アンケート）

ポイント以上高い数値が出た。新領域「私の時間」において、生徒の主体性を重視し、「なりたい自分」や「よりよい未来に向けて」を出発点に学習を展開してきたこと、「見通し-実践-振り返り」学習サイクルで学びを継続してきたこと等の効果が現れているのではないかと考える。

また、「自分の行動で国や社会を変えられると思えますか」においては、唯一日本の平均より10ポイント低い結果となった。このことは、将来支援を受けながら就労し、自立を目指していく本校生徒の実態から、学習に取り組むことで自己理解が進んだ側面であると考えられる。

## ② 教師への効果

第1回校内研修会において、「キー・コンピテンシーを身につけるためのよりよい授業の在り方」をテーマに、グループディスカッションを行なった。協議を進める中で、生徒主体の学びや協働的な学びを実現していくためには、教師の資質・能力や専門性の向上も必要であり、生徒の学びを支えるファシリテーターとしての役割が必

要であろうという考察が、大半のグループから挙げられた。教師自身が学び続け、成長しようとする姿が、生徒にとっていい影響を与えることが、研究開発の実践を通して、教師自身が気づいたことは、大きな成果であったと考える。

また第3回校内研修会において、「生徒がエージェンシーを発揮している姿とはどんな姿か」をテーマにグループディスカッションを行なった。結果、教師から上げられた意見はキー・コンピテンシーの構成要素が具体的な学習場面となって挙げられ、生徒がキー・コンピテンシーを発揮している姿を、教師が見立てられるようになっていることが分かった。

### ③ 教育課程への効果

「学校の授業に関する意識調査アンケート」において、「流山高等学園の授業の中で、自分の人生や生き方を深く考えることにつながる教科はなんですか」について、選択肢（本校で実施している教科・領域）から1つ選択して回答を得た。結果、令和6年の前期は職業（22.5%）、専門教科（20%）、私の時間（19.2%）で、後期は私の時間（23.9%）、専門教科と職業が同率（20.2%）となった。結果から、専門学科を設置する本校の教育課程の軸でもある「専門教科」と「職業」に加え、「私の時間」が中軸になってきていることが分かった。研究開発が進むにつれて、新領域「私の時間」のねらいと意義を生徒が理解して学習を進めていることが伺える。このことは、キー・コンピテンシーの獲得に向けて重要なことであると考えられる。

これまでの既存の教科・領域を往還できるように繋ぐことで、横断的で連続性のある学びが実現できた。対話を通して自分で目標を立てて、振り返る機会の保障ができ、よりそれぞれの教科・領域で資質・能力の育成を推進することに繋がった。また、多様な対象と協働できる機会を設定することができた。こうした教育課程への効果が表れたアンケートの結果だと考察した。

## （2）実施上の問題点と今後の課題

### ①特例3「新領域『私の時間』と既存の教科・領域との学習内容の相互関連」

研究開発を進めていく上で、既存の教科・領域の内、専門教科、総合的な探究の時間、自立活動、特別活動、職業との相互の関連性を高め、運用することができた。しかし、その以外の教科・領域においては、年間指導計画上の資質・能力の繋がりは整理されているが、学習活動には十分活かしかけていない現状がある。今後は教育課程全体で新領域「私の時間」との関連性を整理していくことが課題である。

### ②学びを充実させるための ICT 支援ツールの運用

本研究開発では、独自の ICT 支援ツール「Ne!クスト」を開発・運用してきた。本校の研究実践においては、生徒が自己分析を行ない、自らの学びを自己調整するためのツールとして、一定の成果を残すことができた。しかし、開発段階で当初見込んでいたクラウドインテグレーションでの実用は困難さがあり、開発委託企業と打ち合わせを重ね、Web システムの開発へと移行した経緯がある。今後、独自に ICT ツールを開発しようとする場合、設計段階から専門家の助言を受け、入念な計画を立てることが必要だと分かった。

また、本システムの他校種等への般化を意識して開発を進めてきたが、開発進捗の関係もあり、他校での実践を踏まえた十分な有用性の検証までは至らなかった。残りの開発期間で、可能な範囲で他校種等での実践を進め、効果検証を行なっていきたい。

千葉県立特別支援学校流山高等学園 教育課程表  
(令和 6 年度)

各教科等		学年	内容	1 年生	2 年生	3 年生
				1-1 (例)	2-1 (例)	3-1 (例)
各教科	専門		各専門教科での実習	553.3 (-7.2)	493.4 (-10.8)	489.0 (-7.2)
	授業時数小計			553.3	493.3	489.0
	国語		聞く話す、文学詩、新聞、漢字、英語、説明文	18.9	19.8	17.1
	社会		流通のしくみ、社会マナー、公共機関、きまりと制度、銀行口座	19.8	19.8	17.1
	数学		時間・時刻、金銭、長さ、重さ、表・グラフ、図形・立体	18.9	18.9	18.0
	理科		からだのしくみ、様々な物質、宇宙、天気、動物と植物、電気	18.9	18.9	17.1
	音楽		アンサンブル、リズム、合唱表現、鑑賞	20.7	20.7	24.3
	美術		皮工芸、絵手紙、トールペインティング、切り絵、粘土工芸	18.9	18.9	18.0
	保健・体育		水泳、トレーニング、球技、持久走、スポーツテスト、選択球技、生涯スポーツ	63.0	62.1	69.3
	職業		求人票の見方、履歴書の書き方、相談機関、経済生活、権利と責任、決まりと制度	106.2	141.3	139.5
	情報		基本操作、デジタルカメラ活用、エクセル活用、ホームページ	18.9	19.8	16.2
	外国語(英)		アルファベット、ローマ字、簡単な日常英会話と英語単語表現	19.8	18.9	17.1
	家庭		衣生活、住生活、食生活	36.0 (-11.7)	33.3 (-10.8)	32.4 (-10.8)
	道徳		週日課に位置付け実施	19.8	18.9	17.1
	授業時数小計			379.8	411.3	403.2
領域別指導	私の時間		目標設定をすること、責任ある行動に関すること、振り返りをする	35.1 (+35.1)	37.8 (+37.8)	38.7 (+38.7)
	特別活動	H R	学級・学年で将来の生活全般について指導	97.2 (-5.4)	105.3 (-5.4)	106.2 (-9.9)
		生徒会活動	全校集会・学年集会・生徒総会・生徒会選挙	17.1	18.0	16.2
		学校行事	儀式行事・保健行事・校外行事・文化行事・安全指導	32.4	51.3	27.9
	自立活動		個別面談・構成的グループエンカウンター・体の調整など	22.5	23.4	22.5
授業時数小計			119.7	128.7	128.7	
総合的な探究の時間 (ST)			個別に目標を設定し、課題解決に向けて、週 1 時間と生活全般で指導	12.6 (-10.8)	10.8 (-10.8)	11.7 (-11.7)
総授業時数合計				1093.3	1081.9	1071.3

## 学校等の概要

## 1 学校名（フリガナ）、校長名（フリガナ）

チバケンリツトクベツシエンガッコウナガレヤマコウトウガクエン  
 千葉県立特別支援学校 流山高等学園 校長 マツミ カズキ  
 松見 和樹

## 2 所在地、電話番号、FAX番号

（本校）〒270-0135 千葉県流山市野々下 2-496-1

TEL04-7148-0200 FAX04-7148-0066

（第二キャンパス）〒270-0145 千葉県流山市名都借 140

TEL04-7141-9900 FAX04-7141-8020

## 3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	専門学科	96	12	96	12	91	12	287	36
	計	96	12	96	12	91	12	287	36
定時制									
計		96	12	96	12	91	12	287	36

## 4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		2			85		2			9
実習助手	スクールカウンセラー	事務職員	学校技能員	計						
8	1	5	5	118						